

1 管理運営に対するご意見

	意見の概要	本市の考え方
1	リモートワーク促進による大手企業の都市部勤務者の移住を考えると、業務上の納期や休日出勤などの対応、外国との取引先の業務時間に合わせた勤務などを考慮すると、10:00～20:00の運営では、現実合わないことも出てくることから、柔軟な勤務時間に応じた時間外の利用を検討すべきだと考えます。 入退室管理のICカードやセキュリティシステムの解除・設定を、利用実績と信頼に基づいて利用者個々に審査を行ってから許可すれば、柔軟な働き方ができるようになり利用促進にもつながると考えます。 お試しサテライトオフィスのみICカード等の運用を可能とするなど、限定された領域の利用にしても問題ないかと思えます。	コワーキングスペースの開館時間につきましては、県内や九州内の他の事例も踏まえて、平日の10:00～20:00としていますが、時間外の利用も想定して利用料金を設定しており、事前の申請は必要となりますが、柔軟な対応が可能と考えております。 また、お試しサテライトオフィスにつきましては、利用者の皆様の実績と信頼に基づき、利用者の皆様のICカード等によるセキュリティシステムの利用を検討してまいりたいと考えております。 なお、施設のオープン後は、利用者の皆様のニーズを丁寧に聞き取りながら、施設の運営面の充実を図っていきたいと考えています。

2 施設・備品に対するご意見

	意見の概要	本市の考え方
1	仕事の上でネットワーク環境の速度は、生産性をあげるためにも不可欠な要素であることから、光回線によるギガ対応はもとより、IPv6対応のプロバイダーや機材の選定及びWiFi6による接続集中時の速度低下への対策など、上り下り共に200Mbps以上は常に確保できるネットワーク環境の構築が必須と考えます。	施設内のネットワーク環境につきましては、通信最大速度を上り下り共に1Gbpsの規格、IPv6対応の機材、WiFi6に対応した機器を設置し、円滑にデータを送受信できる通信環境となっています。
2	複数の企業や個人が集うコワーキングスペースの懸念点としては、意図しない情報流出が考えられると思います。特に同業他社が共存する環境などでは、テレフォンカンファレンスブースからの音漏れなども気になるところです。デザイン性よりも音漏れに対する配慮をお願いしたいと思います。	コワーキングスペースにおける情報流出の防止は重要であることから、テレフォンカンファレンスブースでは、電話の声などが漏れないよう防音性の高い仕様としています。
3	コワーキングスペースについて、「紛失時に管理責任を市に問わない」などの事前契約などは不可欠ではあると思いますが、契約者が個人で追加契約できる小型のロッカーなどを置き、PCやキングファイルの資料など常に持ち歩くのに不便であるものは、自己責任の上でコワーキングスペース内に保管できる環境をつくることが望ましいと思います。	施設のオープン時には、小型ロッカーの設置は予定していませんが、利用者の皆様のニーズを丁寧に把握する中で、必要に応じて対応していきたいと考えております。

3 広報に対するご意見

	意見の概要	本市の考え方
1	条例の制定について、Withコロナ時代における、働き方の変容にも対応可能であるので深く賛同します。また、昨今の地方移住への大きな判断材料として、自宅以外での勤務可能な執務スペースの有無は、地方都市ならではの豊かな住環境と併せて非常に重要なものであり、早急な整備とプロモーションの強化に期待しています。	頂いたご意見のように、自宅以外での勤務可能な執務スペースの有無は、地方都市ならではの豊かな住環境と併せて非常に重要であると考えています。市としても、令和4年3月のオープンに向けしっかりと準備を進めるとともに、外部関係機関との連携体制も構築し、積極的なプロモーションも進めていきます。
2	子育てが大きな移住理由である場合に、住環境や病院・学校などの環境はどの自治体もアピールしていますが、快適なリモートワークを実施する環境などは、生活基盤を支える上で重要であり、様々な媒体への掲載も必要と考えますので、移住促進のプロモーション事業の中で、常にコワーキングスペースをアピールしてもらいたいと思います。人口減少を食い止める移住促進であると同時に、市への歳入を強化する所得者層を獲得するためには、リモートワーク従事者やフリーランス等の中でも労働単価の高い移住者獲得に目を向けるべきであると考えます。 また、地方移住が大きな注目を集めているものの、自給自足のような僻地部への移住などがフォーカスされることが多く、憧れは膨れるものの現実とはかけ離れている印象が否めません。生活に不自由しない地方都市に移住し、豊かな大自然にアクセスできる環境が、最も現実的な移住であると考ええると延岡市は大きなポテンシャルを持っていると思います。 想定する利用者で理想的なのは子育てをする若い夫婦世帯であり、生活と仕事の環境を切り分けるのは仕事の生産性向上の意味からも大きなポイントになると考えています。その中でもコワーキングスペースを市が運営することは、大きなアピールポイントになるため、積極的な広報に一市民として大いに期待しております。	本市への移住に繋げるためにも、コワーキングスペースは大きなアピールポイントになると考えています。 このため、HPやフェイスブック等で既に発信するとともに、外部関係機関との連携体制構築による利用促進等の実施や本市に立地（予定を含む）した首都圏の企業等に対してPRも行っています。また、本市の高校を卒業した方への周知や、県東京事務所からの都市部での発信も計画しているところです。 さらに今後は、都市部で開催される移住相談会をはじめ、移住に関する様々なイベントやセミナー等においても、積極的にPRしていきます。また、ユーチューバー等による情報発信についても検討していきます。
3	延岡市はYouTube広告などを活用して行政情報なども通知しているため、同様に移住促進と共にコワーキングスペースの存在を、首都圏在住者向けに発信することも検討すべきではないかと考えます。 YouTube広告は場所と共に、世帯収入や年齢などのターゲット選定も可能なため戦略的な広告を期待したいと考えています。 また、視聴者が少なくても宮崎に移住した情報を発信しているYouTuberやインスタグラマーに広報を単発依頼するなど、広報＋支援策として検討してもいいかと思います。この取り組みは、具体的に移住を検討している人が視聴者であるため、移住のハードルを下げる上でも有効です。	

4 その他のご意見

	意見の概要	本市の考え方
1	大手メーカーで都心並びに地方都市で勤務をしてきましたが、自動車通勤が認められる事業所はなく、また、延岡駅はバスの中央ステーションであることから、駐車場（駐車場料金）に対する便宜よりもむしろ公共交通機関の利用を促進する方策を加えるべきではないかと考えます。終業後の飲食による地域経済への貢献や、利用者の相互理解の促進を考慮すると、公共交通機関の利用促進は検討する必要があると思います。	コワーキングスペースは延岡駅に隣接していることから、ビジネスマンなど市内外からの利用も含め、ある程度公共交通機関の利用者があると想定しています。 また、現在バス交通ネットワークの拡充を進めており、脱炭素社会実施のためにも今後さらに延岡駅を拠点としたバス交通ネットワークの拡充を図る考えです。
2	将来的に利用者が増加した場合の対応策として、「ココレッタ延岡」の活用も視野に入れてはどうかと考えます。ネットやセキュリティー機材及びフリーアドレスのテーブル・イスの設置など最低限のリノベーションで対応できるのではないかと考えます。勤務場所は駅からの徒歩圏内であれば問題ないので、ロケーション的には不都合はありません。	将来的に利用者が増加した場合には、新しい場所の設置も検討材料の一つになってくるとは思いますが、まずは、現在設置予定のコワーキングスペースの充実を図っていきます。 なお、ココレッタ延岡につきましては、IT企業等の入居も進み、本市の新たなビジネス拠点の一つになっています。
3	コワーキングスペースへの取り組みは近隣の自治体や民間でも先行して取り組んでいる事例があり、問題点なども共有することで円滑な運営を期待したいです。特に高千穂コワーキングスペース「452」は、小規模でありながら2015年に開設されており、様々に有益な情報交換ができるのではないかと思います。加えて、日向市のSTAIRS OF THE SEA（ステアーズ オブ ザ シー）のワーケーション施設や「ゆめのかたちぷろじえくと。」などの取り組みも参考になると思われます。	先行して取り組んでいるコワーキングスペースの運営者との情報交換につきましては、大変有意義であり必要性は高いと考えています。 ご提案いただきました施設をはじめ、様々なコワーキングスペースと連携を図りながら情報交換を進めて施設の充実を図っていきます。
4	コワーキングスペース、サテライトの日本語表記をお願いします。	コワーキングスペース、サテライトオフィスともに、簡潔で分かりやすい日本語表記はなく、これらの表記が一般的に浸透していると考えています。 なお、コワーキングスペースは「複数の企業が個人専用のデスクはなく、自由に着席場所を選んで仕事をするスタイルで利用するオフィスで、利用者間の連携・交流を促す特徴的な機能・空間などを有する施設」、また、サテライトオフィスは「企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス」との意味を持っています。 今後、セミナーの開催などを通して、利用者はもとより、多くの方々に身近に感じていただくよう、取り組んでまいります。